

記録映画

1時間48分

平成の

坂田藤十郎

さかた とうじゅうろう

大名跡に挑む、熱き魂の記録

はんなりと……

恋に夢中になった男、

その風情は、

あわれにもおかし。

●写真撮影・蟻川実花 ●下絵「千代桜」・オフィス 宇野千代

撮影期間10年。映画フィルム約5万フィートに焼きつけた歌舞伎役者の魂の旅

語り
桂米朝

船津一 監督作品

●製作：陣内直行 ●撮影：八木義順 ●録音：吉田茂一 ●音楽：原正美

●特別協力：松竹株式会社 ●協力：(株)アロープロモーション (社)日本俳優協会 (株)米朝事務所 歌舞伎音楽専従者協議会

●撮影：大洞陽佑 久保田悦明 中山憲一 小山勇 藤原千史 ●照明：藤米義門 江森清八 近藤裕康 ●録音：佐久間俊夫 山縣良一 酒井信之 渡辺文彦 ●ネガ編：福井千賀子 福井康人 ●現像：IMAGICA / タイミング：飯野浩 ●チェロ演奏：永山利彦 ●助監督：荒間善哲 ●制作協力：諏訪淳 重森良海 井坂能行 森栄子 鈴木久美子 / スタジオ・ピーアンドエム ヨコシネD.I.A 映像サービス ナック 岩波映像 協映

■製作・配給：(株)アズマックス 〒107-0062 東京都港区南青山 4-17-22

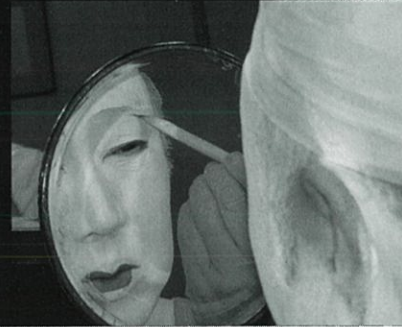


四代目 坂田藤十郎

昭和6年 京都に生まれる

昭和16年 二代目扇雀襲名

平成2年 三代目鷹治郎襲名



平成17年 坂田藤十郎襲名

● 日本芸術院会員

● 文化功労者

● 重要無形文化財保持者



【映画のあらすじ】

●平成17年11月25日。京都南座に「まねき看板」が上がり231年ぶりに坂田藤十郎が復活した。襲名したのは上方歌舞伎を代表する三代目中村鷹治郎。10年前、鷹治郎は夢のようなこの日をまだ予測することができなかった。●「河庄」の稽古場で火花を散らすような掛け合いを見せる63歳の鷹治郎。その独特の「間」と「おかしみ」は鷹治郎の和事芸の真骨頂。「曾根崎心中」では男をリードする遊女お初を演じる。相手役は江戸荒事の宗家市川團十郎。心中に至る二人の濃密な世界が展開する。●自身が主宰する近松座で、64歳の鷹治郎は近松門左衛門が坂田藤十郎のために書いた芝居に挑む。幻の名作『けいせい壬生大念仏』の29年ぶりの上演である。鷹治郎は少しずつ藤十郎へと近づいていく。●68歳の鷹治郎は、近松の出生地ともいわれる山口県長門市で近松作『封印切』の忠兵衛を演じる。浮世の辛さを泣き笑いで包みながら、心中へと踏み出していく男の心を伝えていく。●69歳となった鷹治郎は、さらに深く近松の世界に入っていく。坂東玉三郎を迎えて上演した近松座『心中天網島』は、近松の文章をそのままセリフにするという実験的な歌舞伎。この時、ようやく「藤十郎襲名決定」という朗報が鷹治郎の耳に入る。しかし、それはまだ4年先のこと……。●平成16年の大晦日。毎年恒例の一家での墓参りで73歳の鷹治郎は、初代、二代目以来年の襲名を報告。待ち望んでいた夢はもうすぐ叶う。●平成17年11月30日。京都南座「吉例顔見世興行」で襲名披露初日を迎える。元禄和事の風情を見せた平成の坂田藤十郎は、新たな歌舞伎の未来に向かって船出した。

■ 瀬戸内 寂聴 (作家)

一つの夢を心に抱いて、それを想い続けるという情熱の持続こそが、つれない人の心も、冷たい仕事の表情も動かし、こちらに向かせることになるのだと思う。情熱の大輪の花を咲かせた新藤十郎の舞台を若者に見せたいと切に思った。

(毎日新聞「時代の風」より)

■ 井上 八千代 (京舞井上流五世家元)

藤十郎さんのお舞台は、何を拝見しても人間の匂いがあり、ひとの命の力が発散されるように思われます。しかも私共になじみ深い上方のイキと申しましようか、独特の間のとり方で共感を覚えます。

(淡交社刊「夢 平成の藤十郎誕生」 談話より)

■ 桂 米朝 (落語家)

七十を過ぎての襲名は、普通なら「最後のひと花」と言うべきでしょうが、貴方の場合は顔立ちも、芸も、身体も、実年齢よりずっと若々しいので、一から新しい境地に挑んでもらって大丈夫だという気がします。

(京都南座発行「平成十七年吉例顔見世興行」 番附より)

初代 坂田藤十郎 (1647~1709)



早稲田大学演劇博物館蔵

5月20日(日) 14:00開演(開場30分前) 全席自由500円
京都芸術劇場 春秋座(京都造形芸術大学内)

●チケット取り扱い
 京都芸術劇場チケットセンター
 TEL.075-791-8240(平日10時~17時)

●主催・お問合せ
 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
 TEL.075-791-9437 FAX.075-791-9438